



茨城県桜川市

伝統を守り育てつつ新しい地域を作り出す

高峯の山桜 写真提供：桜川市

茨城県内の44の市町村を、それぞれにゆかりのある筑波銀行の支店長がご紹介します。第22回は、桜川市です。筑波銀行は、桜川市内に3か店2か所の営業店を設置し、桜川市の皆さまと密接な関係を築いています。真壁支店長の赤須浩が、桜川市長 大塚秀喜氏、市長公室次長兼産業立地推進課長 安達誠氏、経済部商工観光課長 中島章夫氏、教育委員会文化財課長 石川文雄氏にお話をうかがいました。

●桜川市が一番と考えていること、自慢できることはなんですか

本市の自慢は、真壁の町並みや真壁のひなまつり^{※1}、雨引観音、桜川のサクラなどの豊富な観光資源です。

市名の由来となった桜川の源流のある岩瀬地区は、古来より「西の吉野、東の桜川」と言われ、山桜で有名な奈良県の吉野山と並び称される桜の名所です。磯部桜川公園や櫻川磯部稲村神社周辺は国指定名勝地となっており、春になると多くの山桜が咲き誇り、そこだけに存在する固有種11種を觀賞することができます。名勝指定地にある桜は国の天然記念物に指定されています。また、平沢地区にある高峯は山一面が自生の山桜で彩られます。ここでは、山桜の花びらの淡い紅色や赤芽が、木々の芽吹きの色緑色の時期と重なり、パッチワークのような眺望を楽しむことができます。一つ一つの花を觀賞する磯部地区と山全体の眺望を味わう高峯というように、桜川市では二通りのお花見を楽しむことができます。

江戸時代末期にソメイヨシノが生まれてから、日本の桜はほとんどがソメイヨシノとなりましたが、それまでは山桜が中心で、江戸の桜の名所には桜川の山桜が移植されていました。悠久の時を超えて、江戸時代までのゆったりと行われていたお花見に思いを馳せながら山桜をご鑑賞ください。

本市で山桜とともにPRしているのが平成27年で13年目を迎えた真壁のひなまつりです。平成22年に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定

された真壁市街地が中心会場になります。住民有志の発想から当初21軒がお雛様を展示して始まったのが、今や160軒が展示し、期間中に10万人を超える多くのお客様にお越しいただける早春恒例の大きな祭りとなりました。住民によるおもてなしを軸に、祭りが住民主体で行われていることが自慢です。

秋のイベントとして、2年ごとに「雨引の里と彫刻」という野外展覧会を開催しています。芸術家が自分で選んだ場所に彫刻作品を展示し、見学者は散策しながら作品を巡り、自由に見て触れて楽しめる展覧会です。

本市ではこの他にも観光資源を活かし、年間を通じて交流人口を増やす取組みを進めております。

●今後の展望について教えてください。

平成27年は、地方創生の観点から、自治体が大きく変わる元年となります。本市も、総合戦略をつくり込むと同時に、戦略だけにならないよう実際に行動することが必要です。地域創生人材支援制度を活用し、庁内に専門部署を設置することも検討します。定住促進、地域医療充実のための取組みや、企業誘致を進めます。

定住促進は、本市に定住するために市外から転入し、住宅を取得した方へ助成金の支給を行います。これにより人口減少に歯止めをかけ地域の活性化を図ります。

地域医療の充実は、筑西市と連携して行います。市内の県西総合病院と山王病院、筑西市の筑西市

※1 真壁の町並み、真壁のひなまつりについては、本誌2015年2月号掲載の「今月の1枚」もご覧ください。



大塚市長



安達次長



中島課長



石川課長



赤須支店長

工芸品に指定されています。墓石も指定されることで、現時点よりも積極的に本市の石製品を販売することができるはずで
す。さらに、「雨

引の里と彫刻」で本市産の石を素材とした作品を制作してもらい展示することもPRにつながると考えています。

●**筑波銀行に期待することをお聞かせください。**
本市は新たに土地を開発するだけでなく、既存の工業団地にある空き工場に進出してくれる企業も探しており、その誘致を進めるための情報提供に期待しています。

民病院の3つの病院を再編統合し、本市に市立病院を整備し、筑西市に新中核病院を整備することとなりました。今後、具体的な病院機能などについて協議し、新しい病院の形を決定していくこととなります。

市内を横断する北関東自動車道の桜川筑西ICに近い国道50号線沿いの準工業地域に複合商業施設の誘致を進めています。この土地に接するJR水戸線大和駅の北側に約50haを開発していくことも見込んでいます。茨城県内は北関東道、東関東道、圏央道の沿線開発が活発ですが、20ha以上のまとまった準工業地域があるのは本市のみです。平成26年4月に産業立地推進課を新設し、本市の利点を積極的に宣伝し、企業誘致を進めています。

地域活性化のため、真壁支店には、真壁のひなまつりに際し駐車場を開放していただいております。真壁には公共交通機関がなく、自家用車で来られる方が多いため、駐車場が不足しており大変助かっています。



りんりんロード 岩瀬～雨引
写真提供:桜川市

りんりんロード（茨城県道501号桜川土浦自転車道線）は、本市の岩瀬駅から土浦

市までを結ぶ40.1kmのサイクリングロードです。茨城県は、このりんりんロードと土浦市から潮来市まで霞ヶ浦北岸を走る霞ヶ浦自転車道を組み合わせた「水郷筑波サイクリングコース」（仮称）の整備を計画しています。りんりんロードの活用に県と連携して取組み、サイクリング客のさらなる増加に期待しています。

また、震災から4年が経過しましたが、被災した建物の復旧工事は、まだ5割程度^{*2}しか完了していません。スムーズに進まない理由の一つに、工事の着手時に手付金を支払わなくてはならないことがあります。復旧工事に対する補助金が出るのは工事終了後ですが、真壁の伝統的建造物群保存地区内は、町並みを守り、育てるために基準が定められていて、伝統的建造物は、工事が長期間にわたる伝統的形式に基づく復元的修理を基本としなくてはなりません。例えば、土壁の修復は、竹を組んで壁の形を作り、その上に土を塗り重ねるのに2年、その後、土を塗り終えた上に漆喰を塗って仕上げると全部で3年もの工期がかかります。そのため、手付金をまかなえる適切な融資商品は、復旧工事を実施したい方の大きな支えになります。今後も、地域のために適切な情報と金融商品の提供を期待しています。

今年には合併10周年を迎えるということで、これまでの事業の利点を活かしながら合併記念として新たな取組みを実施します。例えば、「雨引の里と彫刻」をりんりんロードと組み合わせ、りんりんロード沿いに作品を展示して多くの方が鑑賞しやすくしたり、真壁地区と岩瀬地区でそれぞれに開催している市民祭を合同で開催するなどです。



真壁の古い町並み 写真提供:桜川市

桜川市の特産品のひとつである御影石をもっと広めていくために、本市産の石で造られた墓石について、経済産業大臣指定伝統工芸品の指定を目指しています。真壁石燈籠は平成7年にこの伝統

*2 平成27年2月現在